

高8(高弥会)卒業満5年、ふるさとに集まる



東京とその近辺在住の高8期生(高弥会)は、青木聰君の呼び掛けで毎月8日を定例日とし、懇親・情報交換の会を重ねている。昨年12月8日、忘年会を兼ねて30人ほどが集まった折、「来年は卒業満55年に当たる。ふるさと柏崎で集まるうじゃないか!」との提案があり、大いに盛り上がった。卒業50年をやはり柏崎で祝ってから5年経つ。喜寿まで待とうという考えもあるが、歳月に追われる年齢にも差し掛かってきた。善は急げである。そこで早速在郷の有志が集まり、概略次のような計画を立てた。

- 1 期日 平成24年6月14日(木)、15日(金)えんま市前日及び当日
- 2 会場 「旅館 広川」柏崎市東の輪3 35 電話 0257 22-692
会費は検討中。宿泊希望者は10,000円前後(1泊2食付)
- 3 内容 懇親会(14日)
変わりつつあるふるさと探訪(15日)
えんま市、松雲山荘の茶席、海浜公園、母校訪問等
ゴルフ大会(15日、柏崎市CC)

「旅館広川」は東の輪海水浴場に近接した高台にあり、家族的な温かいもてなしで知られている。しかも宴会、宿泊代ともに手ごろである。番神岬と御野立公園の中ほどに立つ海辺の宿で、旧交を温め飲めを尽くし、翌日はふるさと探訪をも試みたいとこの計画となった。追って4月中ごろまでには案内状を発送する予定。高弥会諸氏には、この両日はぜひ柏崎に参集されるよう切望して、第一次のご案内としたい。なお、詳しいお尋ねは下記幹事宛に連絡いただきたい。

阿部 0257 23-8970 高梨 0257 23-6974

東日本大震災の被災者十一名、母校へ転入学

平成二十三年三月十一日の東日本大震災の被災者十一名が、母校で勉学に励んでいます。今年度は福島県より一年生に五名、二年生に四名、三年生に二名が転入学しました。三年生の二名は、この三月に母校を卒業し、同窓会に入会する予定です。同窓会は、被災され

四年目を迎えたSSH事業

将来をリードする科学技術人材の育成を目的としたカリキュラムの開発を目指す研究開発指定校として平成二十年度に理数コース・理系部活動を対象に指定を受けたスーパースペースハイ

クルール(SSH)事業は四年目を迎えました。

六月には、三年生の課題研究発表会が柏崎市民プラザで開催され、数学科・物理・化学・生物分野より計十五件の研究発表が行われました。夏季休業中は、二年生は東京大学宇宙線研究所(スーパークミオカンズ)や名古屋大学へ、一年生は京都大学再生医科学研究所や京都大学エネルギー理工学研究所へ、それぞれ

二泊三日でサイエンスツアーに出かけました。また、十二月十五日から十七日までの二泊三日で、「高校生・環日本海環境交流セミナー」を実施し、韓国のテジン高校と、シンドリム高校を訪ねました。一年生六名、二年生三名の計八名が参加し、互いに英語で研究発表を行ったり、授業を見学したりと、実り多い研修となりました。

柏高排球部OB倶楽部が昭和二十六年(一九五二)天皇杯全日本バレーボール総合選手権大会で第三位に輝いたことを、もう知らない人のほうが多くなった。この歴史に残る偉業は松田信英先生を中心に高2・5回生の混成チームが成し遂げたものだ。

今年はそのからちようど六十年になる。当時のメンバーの四人は既に鬼籍に移り、毎年四十人を超す出席者であったOGB会も近年は半数になった。しかし嬉しいことに当時の名監督松田先生はご健在で九十九歳を迎えられた。そこで今年のOGB会は、松田先生の白



柏高バレー部OBG会 平成23年10月7日 於シーユース雷音

高14回「卒業50周年記念同期会」(西川正純準備委員会代表)が平成23年10月20日、岬館で開催された。地元と長岡市・新潟市も含めた準備委員会が設置され、平成22年11月から毎月1回のペースで準備してきた。計11回の委員会を重ね、会の運営の細部まで検討し、万全の準備を整えて当日を迎えた。

同日は晴天で佐渡島も良く見えた。日本海にゆつくり沈む夕陽は、観る者を幻想的な絵の中に誘い込むような気分させてくれた。

全員が揃ったところで、ガイダンス後、38名の物語者への黙祷をした。つづいて行われた、「僻地にUターンした都の病院院長」で知られる同期生の原英善医師のミニ講演は、時々ユーモアを混ぜながら健康寿命を延ばす方策を示してく

全員集合記念写真撮影後大懇親会になれば、同期会も最高潮。なにしろ50年ぶりの再会とあって、ステージ上の超拡大卒業写真と胸の名札を照らし合わせては、あちこちで歓声が上がることしばしば。飲むほどに酔うほ

もひとしおだった。当日は晴天で佐渡島も良く見えた。日本海にゆつくり沈む夕陽は、観る者を幻想的な絵の中に誘い込むような気分させてくれた。

全員が揃ったところで、ガイダンス後、38名の物語者への黙祷をした。つづいて行われた、「僻地にUターンした都の病院院長」で知られる同期生の原英善医師のミニ講演は、時々ユーモアを混ぜながら健康寿命を延ばす方策を示してく

これが最後と銘うった同期会だったが、参加者から「参加してよかった」「また企画して」という声が開かれた。準備委員会一同、参加してくれた同期生に感謝するとともに、ほっと胸をなでおろした次第である。

小林和子 記

天皇杯バレーボール第三位の柏高排球部OBG会千秋楽

寿記念とし、全国三位入賞六十周年を区切りに千秋楽にすることとした。写真は、「雷音」に集まった美女丈夫たちである。左上の松田先生は電話で参加され、出席者一人ひとりとの会話を交わされた。卒業後も親交が続く創設期排球部の近況を伝え、文武両道を誇る母校にエールを送るものである。

高14回 卒業50周年記念同期会

高14回「卒業50周年記念同期会」(西川正純準備委員会代表)が平成23年10月20日、岬館で開催された。地元と長岡市・新潟市も含めた準備委員会が設置され、平成22年11月から毎月1回のペースで準備してきた。計11回の委員会を重ね、会の運営の細部まで検討し、万全の準備を整えて当日を迎えた。



第14回 卒業50周年記念同級会 平成23年10月20日 於：岬館

<p>代表取締役 品田 優 (高16)</p> <p>柏崎市小金町十一番六七号</p>	<p>代表取締役 高野 毅 (高30)</p> <p>事務所 長岡市幸町一丁目二番一〇号 TEL 〇二五八-三三五四 FAX 〇二五八-三三五四</p>	<p>代表取締役 佐藤 裕幸 (高20)</p> <p>代表取締役 佐藤 信義 (中39)</p> <p>柏崎市駅前二丁目一番四三三号</p>	<p>編集発行人 柴野 毅 実 (高22)</p> <p>TEL 〇二五八-三三五四 FAX 〇二五八-三三五四</p>	<p>代表取締役 山田 明彦 (高18)</p>	<p>代表取締役 柏崎 日報社</p>	<p>代表取締役 新澤 秀樹 (高22)</p> <p>柏崎市徳波町二番二二号</p>	<p>代表取締役 高鳥 勉 (中4)</p> <p>事務所 柏崎市橋場町一四一三〇 TEL 〇二五七-三三三三 FAX 〇二五七-三三三三</p>	<p>代表取締役 高橋 巽 (高15)</p> <p>事務所 新潟市関新二丁目一番七三三号 TEL 〇二五七-三三三三 FAX 〇二五七-三三三三</p>	<p>代表取締役 原 酒造 隆 (高28)</p> <p>柏崎市新橋五十二</p>	<p>代表取締役 新野 京一 (高22)</p> <p>柏崎市駅前一五十四 TEL 〇二五八-三三三三</p>
---	--	---	--	--------------------------	---------------------	---	---	---	---	---